

ジブリパークを歩いて Vol.9

プロフィギュアスケーターで冬季五輪メダリストの高橋大輔さんが初めてジブリパークを訪れました。アニメーションの世界を表現した空間を巡りながら、世界で活躍した氷上の表現者はどのように感じたのでしょうか。スタジオジブリ作品との縁も語っています。

選ばれた人だけの 「秘密の場所」へ

今回ジブリパークを訪れて、シンブルにとっても楽しかったです！特に床下の家と小人の庭（ジブリの大倉庫）は、花や虫、家具の小物なんかが思っているより大きくて、小人の世界観はとっても夢がありますね。また、実際に倉庫として使われている一部が見られる「公開倉庫（ジブリの大倉庫）も、普段見られないものがあって「秘密、見つけた！」って感じで、気持ち上がりました。アリエッティの小人の世界もそうですが、選ばれた人しか入れないような「秘密の場所」は、ジブリ作品によく登場しますよね。



「小人の庭」（ジブリの大倉庫）にあるジャムの空き瓶に入ってアリエッティの世界に浸る

ジブリパークでは、そんな秘密を垣間見る感覚が味わえるのも魅力の一つ。「ハウルの城」（魔女の谷）でも、作品の中では見られないマルクルの部屋があって驚きました。「ハウルにაცოცხლებული」を感じる空間で、

キャラクターの新たな一面を見たような気分です。「食べるを描く」増補改訂版ジブリの大倉庫（は、映画制作の秘密に触れられる場所の一つ）「食べるシーンもこんなに細かく考えられているんだ！」という発見があり、作品の見方が変わりました。

氷上で経験した ジブリ作品との一体感

子どもの頃からジブリ作品が好きで、映画館で初めて見たのは『もののけ姫』でした。冒頭のタタリ神の場面に驚いたのを覚えています。ジブリ作品は、どこか寂しいとか、人間くさい部分があったり、100%明るいハッピーエンドではないところにひかれます。子どものときと大人になってからでは見え方が変わり、年齢を重ねても楽しめる作品です。そして、音楽も魅力的。『もののけ姫』はもちろん、僕は三拍子の曲が好きなので『ハウルの動く城』などの曲も「滑ってみたいな」って思います。

そんな僕にとって、『思い出のマーニー』DVD発売時のCMに出演できたことは今でも忘れられません。氷上に投影されたシーンの上を、主題歌に合わせた振り付けで滑るという初めての経験で、まるで自分が作品の中に入ったような不思議な一体感を味わえました。

表現者として感じた 人々を魅了する姿勢

アニメーションやファンタジーって、期待値がすごく高いもの。それを現実の空間で違和感なく表現して、ファンを楽しませるのは、とても難しいことです。でも、ジブリパークではそれを見事に実現していました。僕もフィギュアスケーターとして表現と向き合ってきましたが、表現する上では独りよがりではダメだし、見る人とのキャッチボールが大切です。その時々で何が求められているか、そして何を見せたいかを考えながら、変化させていく。ジブリパークもそのように考えられているし、作品自体は昔のもので、常に変化させながら訪れる人を魅了しようとする姿勢に共感しました。



©Shutterstock

誰もが見つけられる 自分だけの楽しみ方

僕はジブリも建築も好きなので、ジブリパークではかわいい建物や家具をたくさん見られて、「ここに住みたい！」って気分が上がりっぱなしでした。ジブリファンはもちろん、そうでなくても、いたるところに夢のある仕掛けが散りばめられているので、お子さま連れでも大人だけでもきっと楽しめるはず。ぜひ自分なりの楽しみ方、そして、自分だけの「秘密」を見つけてみてください。

「秘密、見つけた！」 そんな感覚を楽しんでほしい



高橋大輔（プロフィギュアスケーター）

1986年、岡山県出身。2010年バンクーバー冬季五輪で銅メダルを獲得。14年ソチ冬季五輪出場後に一度引退したが、18年に競技に復帰し、20年にアイスダンスに転向。23年に競技引退し、ショースケーターとしても活躍中。15年『思い出のマーニー』DVDのCMに出演。とし7月には「氷艶 hyoen 2025 -鏡紋の夜叉-」（横浜アリーナ）に出演。8月公開の映画『蔵のある街』で俳優デビュー。

前回は
中村武司さん。
その記事は
ウェブサイト
で公開中



チケットは予約制

© Studio Ghibli



「ジブリのなりきり名場面展」（ジブリの大倉庫）の『思い出のマーニー』にて